

Abstract

スコットランド中部における血友病医療（1980～1994年）  
I. 人口統計学的特性，入院状況および死因

Haemophilia care in central Scotland 1980-94.

I. Demographic characteristics, hospital admissions and causes of death

C. A. Ludlam, R. J. Lee, R. J. Prescott, J. Andrews, E. Kirke, A. E. Thomas, E. Chalmers and G. D. O. Lowe

スコットランドにおける今後の血友病医療に必要な財源を検討する目的で，人口統計学的特性と入院状況，死因について調査を行った。対象は，1980～1994年にスコットランド中部に居住し血液製剤による治療を受けた血友病AおよびB患者と von Willebrand 病患者である。成人および小児を含む413例からデータを入手した（29例については記録を追跡できなかったため，93%のデータが有効である）。1980年における60歳以上の患者人口は1994年に比べて少数であった。血友病AおよびBそれぞれ63例，2例がHIV陽性となった。入院患者数については，この15年間で重症血友病A患者で著明

に増加し（103例/年から168例/年），年間の病床利用日数も増加した。しかし，年間の病床利用日数については年度によって著しい変動が認められた（790～1,832病床日）。入院率は重症血友病Aで特に高く，HIVとC型肝炎ウイルス（HCV）感染の影響により過去15年間に著しく上昇した。血友病B患者の入院率は血友病A患者に比べて有意に低く，重症度別では入院率に差は認められなかった。また，急性出血による入院件数は，15年間を通じて平均入院期間と同様に一定していた。第VIII因子インヒビターを有する患者の入院率はインヒビターをもたない患者のほぼ2倍であったが，両群の入院期間に差

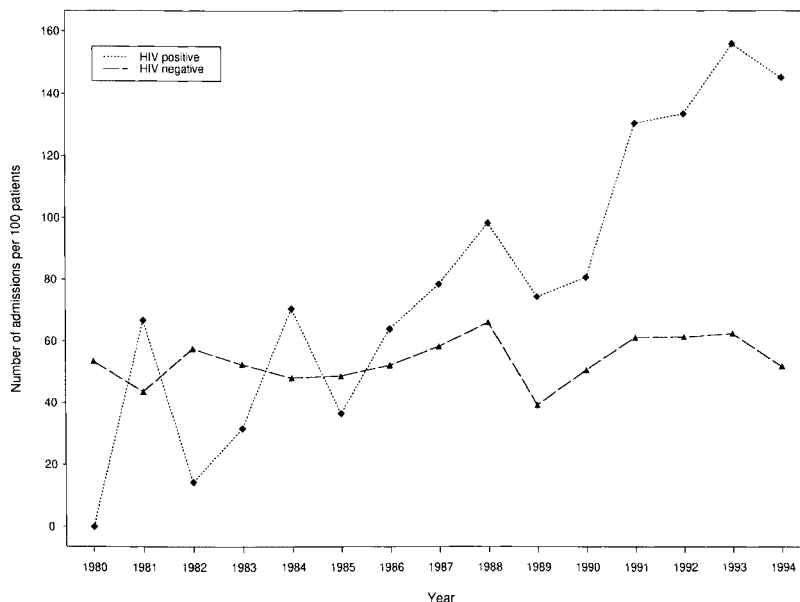


Fig. 5. Admission rate per annum by human immunodeficiency virus status.

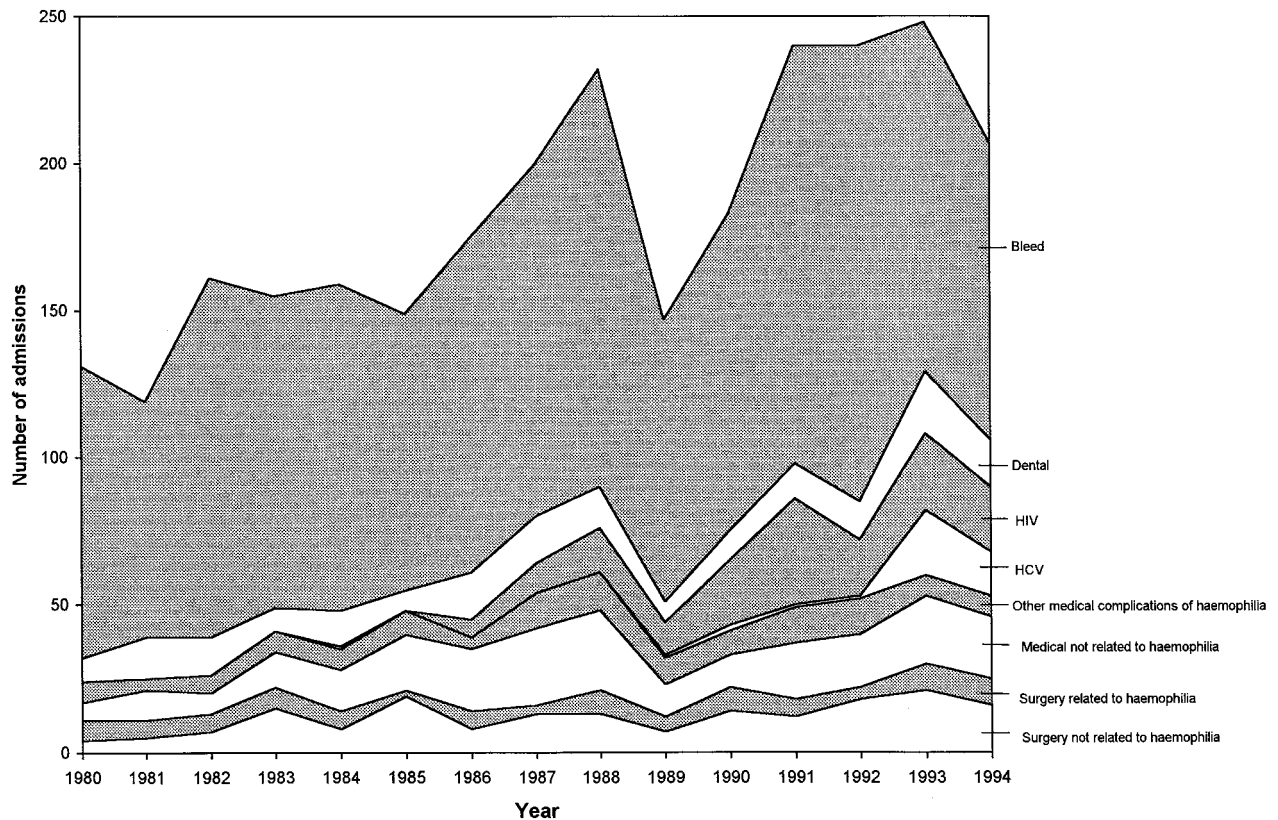


Fig. 6. Number of admissions per annum by reason for hospitalization.

はなかった。15年間の死亡者は61例で、死亡率は主にHIVおよびHCV感染の影響によるものであった。12例が出血が原因で死亡していた。調査結果から我々は次のように結論した — (1)入院件数の増加が示すように、スコットランドではHIVとHCVにより死亡率および有病率は上昇したが、血友病患

者の平均余命は延長している、(2)急性出血治療のためのベッドは今後も必要とされるが、需要は年度により変動が著しい、(3)血友病A患者に比べ血友病B患者の重症度が低いという臨床的印象が裏づけられた。本文ではスコットランドや他の同様の国々における今後の血友病医療計画について議論する。